

認知症は予防できても、完全に防ぐことは不可能です。
最愛の家族が認知症になった時：
あなたは、どのような対応ができるでしょうか。
認知症という病気と闘った家族の現実を、
介護を終えたお二人に振り返ってもらいました。



岩根 真美さん(弁城)

Mami Iwane

岐阜で母と暮らしていた父を地元へ迎えて同居
今年10月に父が亡くなるまで献身的に介護

「認知症」と初めて向き合った当初は戸惑いを隠せませんでした。

決意した父との同居

岐阜で母と二人暮らしをしていた父は、6年程前、70歳ごろから認知症の症状が出始めました。電話越しに検査を勧めた時は「そこまでしなくても」と言っていた母。しかし、やはり精神的な疲れが重なったのか、その2年後、母は病に倒れ、入院してしまいました。岐阜へ行き、わたしは初めて父の症状を目の当たりにしました。その時、父が一人で暮らすことも、

母と二人で暮らすことも厳しいと感じました。姉が仕事をしながら入院中の母の世話をしてくれたので、わたしは福智町で父と同居することを決意。父は住み慣れたまちを離れたがらず、また、父母を離ればなれにすることも胸が痛む中での、苦渋の決断でした。

認知症と向き合った日々

知らない土地での新たな生活は、父にとって大きなストレスに

なっただけかもしれませんが。わたし自身も認知症と向き合うのは初めてで、理解できない面が多々あったと思います。今ならもっと別の行動ができたかもしれません。当初はどうしても父と口論になることが多かった。夜中も対応する中で、精神的な疲れもかさみます。口論の途中で、父にキッチンばさみを突きつけられたり、家を飛び出されたこともありました。

この4年半、度重なる環境の変化が影響したのか、父の認知症はかなり進行していききました。最初は、声をかけてもこちらを見ることがありませんでしたが、これまでの気持ちを含めて日々病院へ通い、娘として精いっぱい親孝行をしたつもりでいます。

意識の変化が行動に

父の前には、夫の母のお世話をしてきましたが、振り返ってみると、知らないうちに自分の意識も変化してきたように感じます。特に高齢者を気にかけるようになり、もし自分の親だったら…と置き換えて考えるようになってきました。

今はご近所の一人暮らしのおばあちゃんを、週2回ほどお手伝いしています。遠くにいる母にはしてあげられないので、自分が動けるうちは力になりたいと思って。自分自身も、いつ心細い立場になるかわかりませんが、支え合える部分は、無理のない範囲で支え合えたらと思っています。

強制退院させられた父

父に認知症の症状が現れたのは10数年前。最初は同じ言葉を繰り返す程度で、特に支障はありませんでした。でもある時、脳梗塞で搬送され、その入院先で父が荒れたため「今すぐ迎えに来てください」と電話が…。次の病院でも同じことがあり、脳梗塞を治療できる病院を転々しました。退院後は自宅で一緒に居ましたが、だんだん外出先から一人で帰

ることができなくなり、朝、目を覚ますと父がいないと探すことも度々ありました。近所の人が家まで連れてきてくれた日もあり、このままでは危ないと、認知症をみとくられる病院の門を叩いたのです。

見捨てるような罪悪感

入院を受け入れてくれる病院を転々とし、家族が不安を抱えているというケースは少なくありません。同居だと病気の進行に慣れ

るため、対応や治療も遅れがちになります。特に、一緒に暮らしている親を病院へ入院させるとなる「お世話を諦めて見捨てる」という罪悪感をすごく感じるんです。父が「なんで入院させなと？家に帰りたい」と訴えるため、一度退院させたことがありました。しかし毎晩、30分おきに起こされ、わたしはつい「いい加減にして！」と父に怒鳴ってしまっただけです。そうして結局、再度入院を選択。「父がかわいそう」「でもみれない」という板挟みに悩み苦しみました。

互いに最善の選択肢を

悩む中で「自分が家でみるのと、病院や施設でちゃんとしたケアを

受けるのと、父にとつてはどちらが幸せなのか」と考えました。「家族が精神的なストレスを重ねながら追いつめられて接するより、規則正しい生活と安全が得られる方がいいのではないかと」。父も最初は病院を嫌がりましたが、少しずつ慣れ、やがて落ち着きました。ある程度互いの距離をおくことも大切だと、その時実感しました。現在は介護保険制度があり、入所やショートステイ、デイサービスなども利用できます。また、各地で相談事業も行われているので、ぜひそれらをうまく活用し、介護の負担を抱え込みすぎないようにしてください。本人も家族も基本的な生活が守られることで、良い関係を保てるものだと思います。

「父がかわいそう」「でもみれない」その板挟みに悩み苦しみました。



辰島 妙子さん(金田)

Taeko Tatsushima

仕事と子育て、同居の父の介護を同時期に経験
町社会福祉協議会 在宅介護支援センター 職員